

はじめに

これまで、筆者は学研メディカル秀潤社より、“あなたもできる皮膚科看護学入門シリーズ”として、「たった20項目で学ぶ」シリーズを計5冊出版させていただいた。同社は皮膚科医向けの“Visual Dermatology”という素晴らしい月刊誌を出版しており、同編集部はご高名な皮膚科医を多数ご存知である。にもかかわらず、あえて筆者のような不勉強ものに5冊もの本を出させる英断を下した事実は、天下の学研グループの戦略として医学出版業界が驚愕したものである（事実、筆者が一番驚いた）。実は筆者は皮膚科医とは関係ない鉄道エッセイなどの連載を持っており、そちらは湯水のごとく原稿が上がるものの、さすがに専門書は自らの能力を遥かに超えており、ほうほうの体で何とか懸命に締切までに書き上げた。恐るべきことは、校正を発売日3週間前まで行っていたことであり、出版他社の知人にこの事実を話すと“さすが！ Gakken！”と妙なところで感心されるのであった。

当初、書き上げれば“後は野となれ山となれ…”と思っていたが、ところがいざ出版されてみると、その売り上げの様子が気になってしょうがない。たとえば、学会会場に存在する書籍展示は頻繁に出入りし、剩え販売員に「筆者ですが、もっと中心においてもらえませんか？」などというのは愚の骨頂であり、何も気にせぬような素振りで遠くから売り上げを観察することが肝要である。筆者の本に手が伸びる場面を見ては「そのままレジへ！」と念ずるも空しく元に戻され落胆し、ライバル書に向かえば「買うことなかれ」と祈るなど、忙しいことこのうえなく、うかうか講演など聴講できぬ有様であり、勉強など二の次となる。

ところが、神よ！ 悪魔よ！ 学ぶ意欲溢れる読者の皆様のおかげで、“たった20項目シリーズ”は好調な売り上げを記録し、増刷に至っている。これもひとえに読者の皆様のご愛顧のおかげと心より感謝申し上の次第である。さらに驚くべきことに、学校保健の現場における皮膚疾患入門書の要望が多数寄せられた。とくに養護教諭においては皮膚疾患についての知識は必須であるが、

適切な入門書がないので、ぜひ“たった20項目シリーズ”の学校保健編をという筆者としては舞い上がらんばかりの有難きご要望である。現場が求めているのは、すべての皮膚疾患を網羅する体系的なテキストではなく、臨床現場でとにかく見ることが多い疾患に限った、安価で読みやすい入門書であろう。

これまでの本シリーズは、学研ナーシングセミナーで会場からいただいた生の声をもとに構成し、「知りたいことがすぐにわかる」と好評をいただいた。しかし、残念なことに皮膚疾患に関する学校保健にかかわる方々向けのセミナーは開催されていない。そこで、今回は学校保健の第一線で活躍する養護教諭の皆様アンケート調査を行い、“今知りたい皮膚疾患”を炙り出した。そのうえで、皮膚科看護学エキスパートの先生方にご意見を頂戴し、「養護教諭が知っておくべき20項目」について絞った本とした。当然、皮膚疾患がすべて網羅されていない前代未聞の本である。本書はあくまで入門編であり、最大の目的は一人でも多くの方に皮膚疾患に親しみを持っていただくためのものである。

本書は、シリーズ共通の構成としてテーマを20項目に絞り、筆者が考える「まずはこれだけマスターしていただければ、大きくスキルはアップする！」という内容のみにあえて厳選している。また、各疾患について項目を設け、「なぜこの疾患の知識が必要なのか？」で疾患を選定した意図を明らかにし、「どんな疾患？」で解説を、「分類は？」で詳細を記し、「鑑別すべき皮膚疾患」で診断を確定し、「治療とケアは？」で治療し、「対応と保護者への説明のポイント」を記した。また、鑑別疾患は山ほどあるものの皮膚科専門医向けではないことから、あえて数疾患に留め、容易な記憶を意図した。

なお、末筆ながら、本書出版にあたり多大なるご配慮をいただいた方々、そして本書にかかわっていただいたすべての方々に心より感謝申し上げる次第である。

安部正敏